

# 社会に慈しみを——目次

|   |                  |    |
|---|------------------|----|
| 1 | 「なんかへん」な今        | 2  |
| 2 | 何かが変わってきている      | 5  |
| 3 | 個人主義が利己主義に       | 10 |
| 4 | 人間とは？            | 13 |
| 5 | なにができるか——「無財の七施」 | 19 |

## はじめに

社会に慈しみを――

これは浄土宗が二〇〇一年、二十一世紀の初めに世界に向けて発信した『浄土宗二十一世紀劈頭宣言』の四つの言葉、「愚者の自覚を」、「家庭にみ仏の光を」、「社会に慈しみを」、「世界に共生を」の中の一つです。まず自分、そして家庭、社会、世界へと考える目を向け、少しでも良い自分に、家庭に、社会に、世界にしていこうというのが、この宣言の趣旨です。どの言葉も、今この現代にもっとも欠けている私たちの思考ではないでしょうか。

# 1 「なんかへん」な今

なぜ? どうして? いったいこの社会はどんなっているの?

近年、こう思うような事件や出来事が増えています。凶悪事件の多発と低年齢化、親殺し、子殺し、儲<sup>も</sup>かれれば他人はどうなってもいい、バレなければ悪いことでもしていい、というような詐欺<sup>さぎ</sup>や経済事件の増加、毎年三万人を超えている自殺者、幼児虐待、いじめ、フリーターやニート、引きこもりの増加、離婚の増加、晩婚化と少子化、環境破壊、倫理観・道徳観の欠如、そして不信感と無関心……。数え上げたらきりが無いほどいろいろな問題が今、この社会に発生しています。

こうした今の日本社会に対して、「なんかへんだ」といった思いと、「このままいったら日本はどうなるんだろう」という漠然とした不安を抱いている人も多いのではないだろうか。

※フリーター…定職をもたず、アルバイトなどで生活する人。

※ニート…仕事につかず、教育や職業訓練も受けていない若者。

家庭の崩壊、教育の崩壊などいろいろ言われていますが、いよいよ日本社会も崩壊へと動き出したのでしょうか。社会の基本である家庭が崩壊し、教育が崩壊すれば、その他もろもろのものが雪崩なだれのごとく崩壊し、社会が、そして国が崩壊するのは、しごく当然な成り行きでしょう。

「そんな大袈裟おおげさな。それは心配のし過ぎ。日本人はそんなバカじゃないよ」と思っている方も多いでしょう。たしかに家庭の崩壊も、教育の崩壊も、その他もろもろの崩壊も、まだまだ一部のことかもしれない。しかし、ちょっと注意深く周りを見てみると、この崩壊状態は身近なところまで忍び寄っていることもたしかなのです。

たとえば、離婚の増加や少子化、ニート、フリーター、引きこもり、それに家庭内暴力も身近で起きています。また学校では、小学校における校内暴力やいじめが増えるとともに、授業中に立ち歩く生徒が多く、授業にならない（学級崩壊）という報告もあります。



また、最近問題になっている振り込め詐欺。さらにホテルやマンションの耐震設計偽装事件、証券に関する事件……。これらの事件は、人間や企業に対する信頼を損なったばかりではなく、いつ自分がそうした事件に巻き込まれるかわからない社会になっていることを表しているのです。

こうしたことをヘンだと思っているうちはいいいですが、これを当たり前と思うようになったら、そのときはもう……。